

貯 法：室温保存
 使用期限：容器，外箱に表示の使用
 期限内に使用すること
 注 意：「取扱い上の注意」の項参照
 処方箋医薬品
 （注意－医師等の処方箋）
 により使用すること

電解質補液（開始液）

リプラス® 1号輸液

Replas 1 Injection

	200mL(ポリアル)	200mL(バッグ)
承認番号	21900AMX01542	
薬価収載	1984年6月	1988年7月
販売開始	1992年7月	1988年7月
再評価結果	1978年3月	
	500mL(ポリアル)	500mL(バッグ)
承認番号	21900AMX01542	
薬価収載	1978年5月	1988年7月
販売開始	1984年7月	1988年7月
再評価結果	1978年3月	

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

高乳酸血症の患者〔症状が悪化するおそれがある。〕

【組成・性状】

1. 組成

リプラス1号輸液は1ポリアル（プラスチックボトル）又は1バッグ（袋）中次の成分・分量を含む無色澄明の水性注射液である。

	200mL	500mL
塩化ナトリウム（NaCl）	0.828g	2.070g
乳酸ナトリウム（C ₃ H ₅ O ₃ Na）	0.448g	1.120g
ブドウ糖（C ₆ H ₁₂ O ₆ ）	5.200g	13.000g
添加物	pH調節剤	

【電解質濃度】

Na ⁺	Cl ⁻	Lact. ⁻
90.8	70.8	20.0

(mEq/L：理論値)

【カロリー】

104kcal/L

2. 製剤の性状

リプラス1号輸液はポリアル（ポリエチレン製容器）又はバッグ（FC：フレキシブルコンテナ：ポリエチレン製バッグ）入りの無色澄明の水性注射液である。

pH：4.5～5.5

浸透圧比：1.0～1.2

【効能・効果】

◇脱水症及び病態不明時の水分・電解質の初期補給

◇手術前後の水分・電解質の補給

【用法・用量】

通常成人1回500～1,000mLを点滴静注する。投与速度は通常成人1時間あたり300～500mL，小児の場合，1時間あたり50～100mLとする。

なお，年齢，症状，体重により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- 腎疾患に基づく腎不全のある患者〔水分，電解質の過剰投与に陥りやすく，症状が悪化するおそれがある。〕
- 心不全のある患者〔循環血液量を増すことから心臓に負担をかけ，症状が悪化するおそれがある。〕

- 重篤な肝障害のある患者〔水分，電解質代謝異常が悪化するおそれがある。〕
- 閉塞性尿路疾患により尿量が減少している患者〔水分，電解質の過負荷となり，症状が悪化するおそれがある。〕
- 糖尿病の患者〔高血糖を生じ症状が悪化するおそれがある。〕

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

副作用が認められた場合には，投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

	頻度不明
大量・急速投与	大量を急速投与すると，脳浮腫，肺水腫，末梢の浮腫

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので，投与速度を緩徐にし，減量するなど注意すること。

4. 適用上の注意

(1)投与前：

- 投与に際しては，感染に対する配慮をすること（患者の皮膚や器具消毒）。
- 体温程度に温めて使用すること。
- 開封後直ちに使用し，残液は決して使用しないこと。

(2)投与速度：ゆっくり静脈内に投与すること。

【薬効薬理】

種々の原因によって起こる脱水症により，血管内血液量に不足をきたし，その結果循環障害に陥る。その際，病態は十分把握できないが，とりえず循環不全を改善する目的で使用されるのが初期輸液である。初期輸液として，次の条件が必要とされている^{1,2)}。

- 電解質組成は細胞外液の主成分であるNaとClの補給が基本である。
- 自由水は比較的少ない方が良いが，逆に自由水の全くない高Na濃度の液を用いると，浮腫と心負荷の危険を伴う。
- 循環血液量の減少に伴って腎障害が起り，乏尿・無尿となることがあるのでKを含まない。

本剤は上記の条件を考慮にいれ，さらに脱水症にはアシドーシス傾向を伴うことがあるので，生体の酸塩基平衡維持の目的で乳酸ナトリウム（HCO₃⁻の供給源）を添加し^{2,3)}，ブドウ糖を加えてほぼ等張にしている。

本剤の電解質濃度は血漿浸透圧の約2/3に相当する濃度で，生体の安全域内に処方されているため高張，低張いずれの脱水症の場合にも比較的 safely 使用できる¹⁾。

しかし，利尿がみられ，臨床検査成績等より脱水状態が明らかになった後は，脱水補給液，維持液等の適切な輸液に切り替えるのが原則とされている。

【取扱い上の注意】

- 1) 通気針は不要（ポリアルは混注量等により、通気針が必要な場合もある）
- ※2) 連結管による連続投与は行わないこと。連続投与を行う場合には、Y型タイプのセットを使用すること
- 3) 内容液の漏出又は混濁などが認められた場合は使用しないこと
- 4) オーバーシール（ゴム栓部の汚染防止のためのシール）が万一はがれているときは使用しないこと
- 5) ゴム栓への針刺は、ゴム栓面に垂直に、ゆっくりと行うこと。斜めに刺すと、ゴム片（コア）が薬液中に混入したり、ポート部を傷つけて液漏れを起こすおそれがある
- 6) 容器の目盛はおよその目安として使用すること

【包 装】※※

200mL	20ポリアル	20袋 (FC)
500mL	20ポリアル	20袋 (FC)

FC（フレキシブルコンテナ）は、弊社が開発したポリエチレン製の輸液用バッグである。

【主要文献及び文献請求先】

- 1) 美濃 真, 日本医事新報, (2428), 13 (1970)
- 2) 美濃 真, 治療, 54, 1669 (1972)
- 3) 越川昭三, 最新医学, 26, 274 (1971)

【文献請求先】 扶桑薬品工業株式会社 研究開発センター 学術部門
〒536-8523 大阪市城東区森之宮二丁目3番30号
TEL 06-6964-2763 FAX 06-6964-2706
(9:00~17:30/土日祝日を除く)

製 造 販 売 元



扶桑薬品工業株式会社

大阪市城東区森之宮二丁目3番11号

DK-911-911A